

技術科部会

内田 康彦

技術教育の「大きな目標」を論議したい

なかなか技術科部会ができずに、苦勞しています。

昨年度の東京教研では、若い仲間を迎えて、日々起こる生活面での話や、教科教育の中での悩み事が話され、「生物育成」に関しても論議できたことを有意義に感じています。今後も、東京教研を中心に、技術科部会により広く、より多くの方の参加を期待しています。

原発事故で新教科書も変更迫られる

教科書が新しくなって、新たに「教育図書」から技術の教科書が出されました。教科書の比較ではもうすでに提出されたものがありますので、重複することなくいくつかの課題点を書き添えておきたいと思います。

三月十一日の福島第一原発の事故によ

り、原子力に対する国民の感情が大きく変化してきました。「知らなかった」ことがたくさん出てきて、「知らされなかった」ことがたくさん出てきました。奇しくも、新学習指導要領では「目標・実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる」と技術科の目標を定めています。原発事故に伴って、「適切に活用する」という点から、現在、改訂を行うために各教科書会社の変更を迫られています。

職業教育がより必要な時代

一方、被災地だけでなく若者の就職難

はさらにひどいものになってきています。世界各国で、若者が就職できるよう（職業訓練を受けている間も有給であったり、就職まで保障したりしているなど）積極的に援助している様子を知れば知るほど、日本の職業教育の不備を感じます。

大学を卒業した学生の五人に一人が就職できず専門学校に再入学したり、大学院に進まざるを得なかったりする時代に、高等学校専門学科を卒業した学生の就職率が未だに100%を維持しているのは、それぞれの高等学校での努力によるところが大きいと思いますが、職業教育がより必要な時代を迎えているということでもあると思います。

若者に働く権利を保障するために、中学校技術科教育は高等学校専門学科と中学校をつなぐ意味ある教科であると私は思っています。「どんな領域を、どんな授業展開で、どんな教材を通して、何を子どもに学ばせるか」という『大きな目標』を、一緒に論議していきたいと思えます。そんな部会として、技術科部会が機能できれば、何より幸いです。

（荒川・九中）